

教育活動

2017年度白川町・東白川村ORT報告会を実施

12月16日(土)午後、白川町町民会館大研修室において、2017年度の白川町・東白川村ORT(On-site Research Training、博士後期課程臨床環境学研修・前期課程持続可能な地域づくり実践セミナー)の報告会を実施しました。2017年度のORTは、岐阜県の白川町と東白川村をフィールドとして実施し、学生たちはグループごとに調査・研究を重ねてきました。報告会では、修士課程のグループ2つ、博士課程のグループ2つが、半年間の研究成果を発表しました。ポスター発表では、地元の参加者のみなさんと学生たちが、直接、質問・意見をやりとりし、パネルディスカッションでは、白川町・東白川村の方々がパネラーとして参加し大変盛り上がりしました。



パネラーのみなさんと

■ 修士課程学生グループ

「ラオス農村部から考える東白川村の持続可能性～若者をとりまく環境～」

菖蒲 一歩, 庄子 裕, 田中美妃, 翟方舟, 横山 祐祐

「ラオス農村部における生活づくりの特徴」

野村 菜由, 前田 悠佑, 山本 通寛, 李雨 嘯, 劉 毅

■ 博士課程学生グループ

「持続的な中山間地域のための森林資源の価値連鎖—岐阜県加茂郡東白川村の事例から」

Ann SANGEETHA, 鄭 緑芸, 橋本 洋治

「バッファゾーンの設定・管理を通じた地域づくりの提案」

原 香菜子, 三歩 一孝, Syarifah Dailmunthe

「2017年度白川町・東白川村ORT報告会」の詳細は、下記のウェブサイトをご覧ください。

http://ercscd.env.nagoya-u.ac.jp/jpn/course/2017ort_1.html



イベント

【報告】「トークバトル 鉄道が地域の未来を明るくするために」

12月11日(月)夜、共発展センター主催のもと、名古屋大学環境総合館レクチャーホールにて「トークライブ 鉄道が地域の未来を明るくするために」が開催されました。これは9月17日に開催された「トークバトル 鉄道の存在意義、そして存続方策」に続く企画で、平日夜にもかかわらず約100人の参加があり、中部地方以外からも多くの参加がありました。

地方紙の記者として全国各地の地域づくりの現場を駆け巡るとともに、JR鉄道線全線を乗車しているローカル・ジャーナリストの田中輝美さんにお越しいただき、地域における鉄道の存在意義の大きさと、それを守り活かすために「呼び込み」「解決し」「稼ぐ」取組を地域が行うことの重要性を講演いただきました。その後、加藤博和教授(共発展センター)と、鉄道を活かし地域を活性化する「仕掛けづくり」について対談しました。豊富な経験に裏打ちされた議論に参加の皆さんは聞き入っていました。終了後の交流会でも、出演者や参加者が熱心に意見交換し、地域づくりに携わる人同士の新たなつながりをつくる機会となりました。



盛り上がるトークライブ

興味を持たれた方は、下記のウェブサイトもご覧ください。

<http://orient.genv.nagoya-u.ac.jp/tanaka.html>



ニュース

フューチャー・アース研究センター キックオフ・ワークショップ
名古屋大学におけるフューチャー・アース研究の最前線

フューチャー・アース(Future Earth)は、持続可能な地球社会の実現をめざす国際協働研究プラットフォームです。2012年「国連持続可能な開発会議」(Rio+20)で提唱され、2015年から10年の計画で活動を開始しました。フューチャー・アースは、SDGs(持続可能な開発目標)の実現に貢献する学問研究として、市民、行政、企業など社会のステークホルダーとともに研究を進めるトランスディシプリナリ(超学際的)な学問の展開をめざします。名古屋大学におけるその推進力となるフューチャー・アース研究センターが2018年4月に発足する予定です。発足を前に学内での機運を高めるためのワークショップを開催します。

◆日時 2018年3月12日(月) 13:30-17:40

◆場所 名古屋大学 ES総合館 1階会議室

◆共催 環境学研究科・生命農学研究科・国際開発研究科・宇宙地球環境研究所・地球生命圏研究機構

◆入場無料・申込不要



興味を持たれた方は、下記のウェブサイトもご覧ください。

<http://www.env.nagoya-u.ac.jp/news/pub/20180312.pdf>



2017年度「臨床環境学コンサルティングファーム」の活動

共発展センターでは、自治体との連携5件、企業との連携8件の計13件の案件を、学術コンサルティング・受託研究・共同研究として受託しました(受託総額は約5,600万円)。地方自治体との連携や企業との連携などいずれの案件においても、大学としての専門性を活かし、住民の中に入る支援を行うことができました。また、2018年の案件形成も順調に進められており、コンサルティングファームを通じた大学と社会の連携がますます発展していくものと期待されます。

◆ コンサルティング実施案件リスト ◆

1. 地方自治体との連携

(1) 地域づくりに関するもの

パートナー	テーマ
設楽町	設楽町地方創生に関する学術コンサルティング
恵那市	上矢作道の駅周辺再整備学術コンサルティング業務委託
高山村	日本版「首長誓約」の持続可能なエネルギーアクションプラン作成調査
名古屋市	久屋大通における道路空間再編に関する研究

(2) 地域公共交通に関するもの

白川町・東白川地域 公共交通活性化協議会	白川町及び東白川村の公共交通に関する研究
-------------------------	----------------------

2. 企業との連携

(1) CSR活動に関するもの

パートナー	テーマ
ブラザー工業(株)	「ブラザーの森郡上」環境保全活動に関する研究

(2) 環境エネルギー技術開発に関するもの

小島プレス工業(株)	水流計水車を用いた小型水力発電に関する学術コンサルティング
中部電力(株)	住宅におけるセントラル空調システムの室内温熱環境評価に関する研究
いすゞ自動車(株)	キャパシタの研究(ディーゼル排ガスに含まれるパティキュレート・マター(PM)濃度を連続モニタリングできるセンサの開発)
(株) SOKEN (株) デンソー	炭化水素化合物の電気変換技術に関する基礎研究
(株) デンソー	SOFCのセル被毒抑制に関する研究-硫黄・クロムの影響
独立行政法人環境再生保全機構	再生可能都市への転換戦略 — 気候変動と巨大自然災害にシナジーに対応するために —
村楽エナジー(株)	土佐清水市バイオマス賦存量調査に関する支援業務

◆ 【告知】臨床環境学コンサルティングファーム説明・相談会の開催 ◆

「臨床環境学コンサルティングファーム」が地域・自治体・NPO・企業などを行っている調査研究やコンサルティングの活動について、これまでの主な実績を紹介するとともに、その開始までの流れやその後の進め方について説明します。また、学生と教員が半年間、地域に出かけて調査実習を行う「臨床環境学研修」の授業についても紹介します。その後、コンサルティングに携わる教員と直接話ができる相談の場を設けます。加えて、地域の課題について大学とともに解決策を考えたい方々に、どのような進め方がよいか、どの教員が対応できるかも含め相談できるようにします。

コンサルティングや臨床環境学について知っていただき、直接相談もできる機会ですので、ぜひともご参加ください。

◆日時 2018年3月20日(火) 13:30-17:00

◆場所 名古屋大学 環境総合館 1階 レクチャーホール

◆入場無料

興味を持たれた方は、下記のウェブサイトもご覧ください。

http://ercscd.env.nagoya-u.ac.jp/jpn/announcements/post_10.html



名大共発展センター・ニュースレター第13号をお届けします。今号は、ORTの最終報告会やコンサルティングファームの実績など2017年度のまとめと、2018年度から新しく組織され今後ますます活動を強めていくFuture Earthのイベントについてです。

今後も、その成果をニュースレターでみなさまにお伝えしていきます。引き続き共発展センターをご支援頂きますようお願いいたします。

名古屋大学



大学院環境学研究科附属
持続的共発展教育研究センター

共発展センター・ニュースレター 編集部

名古屋大学大学院環境学研究科附属持続的共発展教育研究センター 事務局

〒464-8601 名古屋市千種区不老町 名古屋大学環境総合館421号室

電話/FAX: 052-747-6547 E-mail: cesfirm@ercscd.env.nagoya-u.ac.jp